

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ 「№1778 長期継続大型地震推定前兆変動」 原稿校了後の前兆変動変化についての続報

ハケ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

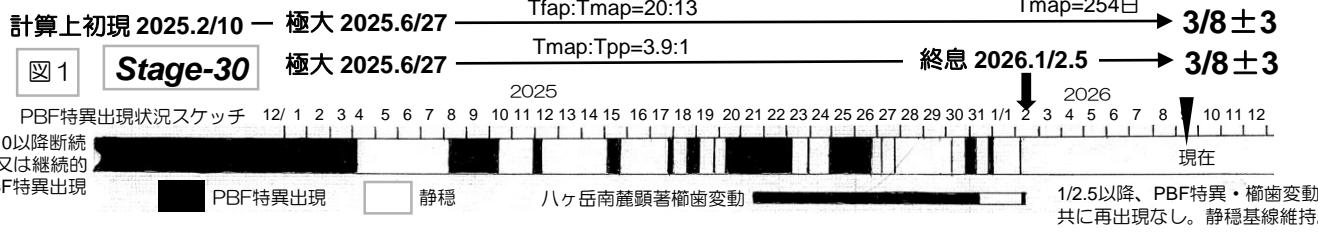
続報 № 429

2026.01/09 (金曜) 12:00 発表

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の他の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁~35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

№1778 長期継続前兆変動 続報 PBF特異 1週間再出現無し Stage-30 終息認識 Stage-30 が最終ステージである場合 対応地震：3月8日±3 発生の可能性



◆1/2.5で静穏化したPBF特異変動並びに櫛歯変動は、本日1/9まで、再出現は観測されず、一週間静穏基線が継続しています。今までに5日以上静穏基線が継続したことがないことから、完全終息認識。Stage-30が終息したことになります。次のステージに移行しない場合は、2008年7月4日から17年6ヶ月継続した№1778長期継続前兆変動の対応地震が、3月8日±3に発生する可能性が推定されます。

◆仮に直前変動が出現する場合は、1月25日頃にPBF特異または顕著特異変動等が出現する可能性が示唆されます。観測されれば、発生日をより狭められる可能性がある。

◆№3614とした№1778の別形態前兆認識変動は、変動数が減少し継続中。今後の観測で検討予定。

各推定根拠は以下

●推定領域：各変動の推定影響局位置から経験則を使用して作図し、重複領域を求めて推定
火山近傍地震前兆変動が多数観測されたことから、火山近傍領域に震央の一部がある可能性が考えやすい

●推定規模：13回出現したPBF・ランダウ減衰型BFの継続時間計最長値(h)より、 $\text{Log PBF}(h)=0.5M-1.8$ 経験式より推定

●推定時期：Stage-30 の初現・極大・終息の関係を $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$ $T_{\text{map}}:T_{\text{pp}}=3.9:1$ 経験則に則り推定

○推定地震種：最大30の観測装置に変動出現＝陸域地震を示す 長期継続変動＝日本列島の地殻地震を示す

○推定発生時刻：複数観測された基線幅増大BT変動の日々の共通変化（出現開始・終息）時刻より推定

※HP担当の方の出張の関係で、修正報告が必要な場合でも、1/18まで更新はできません。ご了承ください。

直前変動が観測された場合は1月末頃に続報を公表する予定です。直前変動が無い場合は2月中の変化を鑑み続報予定。